

令和4年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))																														
***	○主体的に学び、思考力・表現力を育てる。	生徒が主体的に学び考える授業の創造	○授業に関する教師の肯定的な評価が中間より上がっているが、生徒の授業や学習意欲に関する評価は下がっている。指導する側の自己点検が必要がある。 ○「相手に分かりやすく発表している」が上がったのは全校で「自己表現」を意識して指導した成果と考えられる。ただ、「ノートに考えを記述している」が中間より下がったことについて、タブレット活用で「書く活動」が疎かにされていないか自己点検が必要がある。	○振り返りや復習等で、生徒が分かっていること・いないことを丁寧に見取ることを継続する。家庭学習では、個に応じた学習方法を提示し肯定的評価を行いながら学習意欲を高める。 ○自己表現活動充実やタブレットの効果的な活用を来年度も継続していきながら、ノートに自分の疑問や意見を記述するといった「書く活動」にも全教科で組織的に取り組む。																														
**	○自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育む。	自己肯定感と集団適応感の向上	○自己肯定感と集団適応感の向上に関わるほとんどすべての項目の自己評価で肯定的評価が生徒・保護者ともに上昇した。この背景には、昨年度まではコロナ禍で実施できなかった行事や活動を今年度は実施できたことと自己表現活動の充実があげられる。 ○特に「仁音祭(合唱コンクール)」では、どの学級も学校代表を目指して学級で一体となって真剣に取り組む、ほとんどの生徒が達成感を味わうことができた。	○来年度も学校行事・生徒会活動での自律的縦割り集団活動や総合的な学習の時間・各教科での自己表現活動を充実したものにしていきたい。 ○この1年間で、中学2年生が大きく成長した。来年は中学3年生になり、さらに成長した姿を見せ、中学校を引っ張ることを期待している。																														
*	○たくましい体を育成する。	生徒自らが主体的に取り組む体力の向上	○体力テストについては、県平均を下回る結果となった。特に、重点課題のシャトルランは年々記録が下がっている。保健体育での授業、部活動で体力向上を図り、冬場に再検証すると春より記録は向上した。基礎的な動きを日々継続して取り組めるかが課題である。 ○1・2年生では、「呉チャレンジマッチスタジアム」の「8の字飛び」を取り上げて、学級毎に呉市全体での上位入賞を目指して取り組み成果を上げることができた。	○1月にスタートした新生徒会執行部も早速、各委員会が、あいさつ・授業規律・清掃・読書活動等について、新しい提案をしている。生徒が主体的に取り組む今の仁方中学校の文化を更に発展させていきたい。 ○校則についてこれまでも生徒総会で生徒が意見を出し合いながら改訂してきた。これからも丁寧に議論しながら進めて行きたい。																														
業務改善	○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備する。	心身の健やかな発育と防災教育・安全教育の充実	○外部講師の活用は、2学期では「がん教育」「薬物乱用防止教室」「車椅子バスケット」を実施した。生徒の肯定的評価は、「がん教育」98.5%、「薬物乱用防止教室」98.5%、「車椅子バスケットボール」97.2%と高い結果となっており、どの取組も、自他の命や健康、障害・福祉に関連しており、しっかり学ぼうとする生徒の姿を捉えることができています。 ○来年度も、外部講師を活用し様々な安全教育(健康面・安全面・危機管理面・情緒面)を展開していきたい。 ○特別支援教育に関する取組については、不登校等生徒への支援の場として、2学期から校内適応指導教室を開設した。	○本校の喫緊の課題の一つとして、不登校生徒の増加に対する支援対策が挙げられる。(欠席30日以上の不登校生徒数の割合:令和3年度6.9%⇒令和4年度1月末現在 17.7%) ○その対策として、今年度、校内適応指導教室を整備・設置、運営に取り組んでいる。これらのことについては、定期的に運営の見直し及び改善を図り、支援が必要な生徒に対して、主に「居場所づくり」や「学習活動の支援」を方策の中心に現状の体制でできる限りの取組を進めていきたい。																														
		組織的な業務改善の推進	<table border="1" data-bbox="454 1825 989 1937"> <thead> <tr> <th colspan="6">時間外勤務45時間を超える教職員の割合</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>73%</td> <td>47%</td> <td>47%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> <tr> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>6%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○中間評価と比較すると時間外勤務は減少している。個々の職員のタイムマネジメント力が高まっていると考えられる。 ○「生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教職員」の肯定的回答の割合は目標を達成した。会議の精選に取り組んでいるが、今後もスクラップ&ビルドを継続してしていく。</p>	時間外勤務45時間を超える教職員の割合						4月	5月	6月	7月	8月	9月	73%	47%	47%	20%	0%	27%	10月	11月	12月	1月	2月	3月	40%	20%	20%	6%			○学校行事(体育大会・仁音祭)、学期末の評価、部活動の大会前等の時期に時間外勤務が増加する。どれも生徒に関わる大切な業務内容である。だからこそ、何をいつまでに準備するかを見える化するなどして、見通しとべ切を意識しながら業務を進めるタイムマネジメント力を高めることで業務改善を進めていく。 ○生徒の成長を願いながら業務に携わる教職員のモチベーションを大切にしながら、業務改善の意識を高めていきたい。
時間外勤務45時間を超える教職員の割合																																		
4月	5月	6月	7月	8月	9月																													
73%	47%	47%	20%	0%	27%																													
10月	11月	12月	1月	2月	3月																													
40%	20%	20%	6%																															